2019年3月20日

北多摩西教育会館

三多摩メーデー学習会への報告

第90回三多摩メーデー実行委員会

事務局次長　　　　　　杉本　正巳

# はじめに

　第90回メーデーの開催日である5月1日が、即位の礼と重なることから、5月1日開催について疑問視する声が上がっています。また、今回は特別に祝日となっていますが、平日ではなく休日に開催すべきという声が以前から出されています。

　今年のメーデーは、過労死をなくす長時間労働削減、8時間働けば安心して生活できる賃金等の労働者要求実現と憲法改悪阻止、消費税１０％増税STOPなど将来を左右する重大な国民的課題を掲げる大事なメーデーです。

第90回という節目の年に改めてメーデーの歴史を学びあい、5月1日開催の意義を再確認する中で、組合員にメーデー参加を呼びかけ、今年のメーデーを大きな参加で成功させましょう。今年の三多摩メーデーの会場とデモ行進の準備状況に関しても特段の障害がないことを報告します。

# １．メーデーの歴史

資料について：この章で参照する資料は以下のものです

資料１：ウィキペディア「メーデー」

　URL: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%87%E3%83%BC>

資料２：「メーデー　その歴史に学ぶ」中村堅二郎（学習の友1985年3月号）

　URL: <http://e-kyodo.sakura.ne.jp/nakabayasi/130926mayday.pdf>

* 「メーデー（May Day）」とは元来五月祭を意味し、この日に夏の訪れを祝う祭がヨーロッパの各地で催されてきました。この祭では労使双方が休戦し、共に祝うのが慣習でした。（資料1：概要）
* 昔は１２時間～１４時間の長時間労働が当たり前でした。１８８６年５月１日、アメリカの労働者が「８時間は仕事のために、８時間は休息のために、そして残りの８時間はおれたちの好きなことのために」を合言葉にストライキ・デモ行進を行い、８時間労働制を実現しました。しかし、ヘイマーケット広場に集まったストライキ参加者への武装警官による血の弾圧事件を契機に、８時間労働の約束も反故にされます。（資料1「概要」、資料2：p.1～2）
* 再びゼネストでたたかうことを決めたアメリカの労働組合は、国際的に共同行動を呼びかけました。これにこたえて、第2インターナショナル結成大会は1990年5月1日を国際的デモンストレーション行動とすることを決議し、翌１８９０年に世界各国で８時間労働制を求める第１回メーデーが実施され、その後も労働者の国際連帯行動として各国で取り組まれてきました。（資料2：p.2、資料1「概要」）
* 日本では、１９２０年５月２日（日）に「８時間労働制、（ストライキ等を弾圧した）治安警察法１７条撤廃、失業の防止、最低賃金制の確立」などを求めて第１回メーデーに1万人集まって行われました。その後、１９３５年の第１６回まで各地でとりくまれましたが、１９３６年に戦争準備の戒厳令により禁止され、以後、終戦まで10年間政府により禁止されました。（資料1：「日本におけるメーデー」、資料2：p.4～5）
* 戦後民主改革のもとで息を吹き返した労働組合は、翌年の１９４６年5月1日に第17回メーデーを全国200万人東京では皇居前広場に50万人が参加して復活させました。第17回メーデーはその後の労働組合の全国組織と職場の組合結成の前進への重要な契機となりました。（資料1：第2次世界大戦後）
* 1950年朝鮮戦争開始、日米単独講和（サンフランシスコ条約）締結を控え反対運動の盛り上がりを恐れた、政府とGHQは、1951年皇居前広場の使用禁止したため、総評はメーデーを中止した。統一メーデー促進会は全面講和、再軍備反対をかかげ芝公園でメーデーを実施した。（資料1：「第2次世界大戦後」）
* 1952年メーデーは、単独講和とに日米安保条約への抗議を掲げた。前年より使用禁止された皇居前広場に向かった一部デモ隊に警察官2000人が襲い掛かり、二人が死亡し千数百人が負傷した。これをもとに政府は組合指導者を騒乱罪で逮捕検挙し労働組合活動は大きな打撃をこうむった。（資料1：「第2次世界大戦後」、資料2：p.6）
* 1959年、1960年のメーデーは、日米安保条約反対を掲げて行われ、岸内閣を打倒し、アイゼンハワー大統領の訪日をも取りやめさせた。（資料2：p.6）
* 1970年代の高度成長期には、狂乱物価の中大幅な賃上げをかちとり労働者の生活向上をかちとってきた。またナショナルセンターに違いを超えた統一メーデーが行われ、三多摩でも統一メーデーが1989年まで開催された。
* 三多摩メーデー
労働戦線の右翼的再編と「連合」の結成、中央メーデーの変質という一連の動きの中で、１９９０年三多摩統一メーデー実行委員会で「三多摩連合の結成をすすめよう」を筆頭スローガンにかかげるという重大な変質・分裂の動きが連合系労組から持ち込まれました。このため、たたかうメーデーの歴史と伝統を守ろうとわずか２週間の準備期間で実行委員会を組織し、井の頭公園西園で第６１回三多摩メーデーを６３００人の参加で成功させました。（資料：三多摩労連10周年誌p.4～5「三多摩メーデー」）

# ２．世界のメーデー

## 【各国のメーデー】

* 世界各国で、5月1日にメーデーが取り組まれていることは、ネット情報で確認できます。AFP通信のBB NEWSサイトに2008年のメーデー写真が掲示されており、これには41か国、53カ所の写真が載せられています。（資料2008年世界メーデー写真\_国別ソート（AFP）.xlsx）
* 集会の内容などの報道は少ないが、昨年、一昨年の連合通信の配信では、ITUC（国際労働組合総連合）でも、「平等と尊厳、発展、平和の実現に向け連帯と団体行動の力を発揮することが必要」と声明されていること、スリランカで政府が5月1日のメーデーを禁止したことへの反発、2017年の大統領選挙目前の韓国メーデーなどが報じられています。（資料：世界のメーデー2018-2017（学習会向け）.docx）
* また、資料は付けていませんが、2012年の赤旗記事にチュニジア、エジプト、インドネシア、ギリシャ、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ドイツの記事が掲載されています。ドイツは全国420カ所で集会・デモに42万人が参加したと報道されています。

## 【5月1日は国際デーであり、80か国以上が祝日にしている】

メーデーは国際連合などの国際機関によって定められた国際デーとなっており、世界の少なくとも80以上の国でメーデーを祝日としています。OECD加盟36か国中、祝日としているのは28か国（７７％）であり、祝日としていない主なOECD加盟国は、日本、イギリス、オランダ、スイス、デンマークなどです。（資料p.9）

国際デー：国際機関（国連など）により定められた記念日で、毎年定められた日に、特定の事項に対して特に重点的問題解決を国連はじめ全世界の団体・個人に呼びかけるための日である。

# ３．会場借用に関する状況、警察へのデモ申請の状況

* 会場に関しては、井の頭公園西園で申請書の提出済みです。昨年から井の頭公園の管理を行う、西部緑地事務所管理課の課長・担当者と折衝を重ねてきました。天皇即位に関連する行事はなく、オリパラ関連の都の行事予定もないということで、デコカー、宣伝カーの駐車スペースをどこにするかに関して3月初旬で確定できました。管理事務所の要請で新年度の申請は年度が替わってからということで、4月1日の日付で借用申請書を提出済みです。
* 三鷹警察、武蔵野警察に対しては、3月15日にメーデーデモ行進の前打合せを行ってきました。デモ行進のコース・時間は昨年同様であることを伝え、警察の担当者が変わったので細部の打ち合わせを行い、警備に特段の支障がないことを確認しました。3月末にはデモ申請を行うことで日程確認をしています。

# ４．憲法－象徴天皇制、主権在民、労働三権　／　5月1日の宮中行事

* 私たちは憲法を守りいかそうと、３０００万人署名に取り組んでいます。憲法は第１条から４条で天皇について規定し、主権が国民に在ること（第1条）、天皇は国政に関する権能を持たないこと（第4条）を規定しています。第２８条では、労働者の団結権、団体交渉権、団体行動権を保障し、２０条で集会、結社の自由を保障しています。
* 天皇代替わりに関り5月1日に行われる行事は、一般国民が参加する行事ではなく、宮中で行われる行事です。（参照URL：<https://jpnculture.net/sokuinorei/>）